

ラボラトリー・スタディーズ： 知識生産の現場のミクロな記述とは

2012年7月30日（月） 18:00-20:00

実験室をフィールドワークする「ラボラトリー・スタディーズ」は70年代・80年代頃から始まりました。ラボラトリー・スタディーズは創始された当初より既成の科学観に対する批判を旨とし、現実の科学実践の記述を通じて新たな科学観を提示することを試みてきました。今回はそうした一連の研究について、自分の研究の話を交えつつお話出来たらと思います。（ゲストより）

ゲスト 森下 翔 氏

京都大学大学院 人間・環境学研究科 文化人類学分野
日本学術振興会特別研究員（DC1）

2010年度より現所属。地球科学系の研究室に滞在し、「実験室のフィールドワーク」を行なっている。関心は科学実践のミクロ・マクロなダイナミクスから、伝統的な人類学のトピックと科学・技術の関わりといったことまで幅広く持っています。

会場 京都大学 吉田泉殿

- *京町家風の建物です。
- *普通の家のように見えるので、通り過ぎないようにご注意ください。
- *入り口に「京都大学吉田泉殿」という看板がかかっています。

定員 25名程度

- *当日参加も可能です！
- *お申し込みをいただいた方には、リマインダーをお送ります。

持ち物 （おなががすく時間なので） 夕ご飯をご持参ください。

主催 科学コミュニケーション研究会 関西支部有志 水町 衣里、秋谷直矩（京都大学）、加納圭（滋賀大学）



お申し込みはコチラから → <http://bit.ly/KFa2lr>